

# 2012 年事業計画

## 1. 事業実施の方針

エチオピアでの緑化や水資源開発に関する事業を推進するとともに、国内においてはその広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業、およびそれらに付随する活動を行う。

## 2. 事業計画

### (1) 海外事業／エチオピア連邦民主共和国での緑化事業や水資源開発事業

事業名 予算(ブル)	事業内容	実施日時	実施場所	その他 (重点目標等)
学校での環境教育  ( 5,000)	小学校で環境クラブの活動を支援する。	通年	ラリベラ、ゲテルゲ、ナクテラ、サルズナ各小学校他	環境問題の種まきは子供たちから。木の役割を理解してもらい、その育て方を環境クラブの子供たちに指導していく。環境教育の教材を充実させ、プロジェクターなども使い、インパクトの強い啓蒙活動を行う。子供達から家族らにも、植林イベントを通じた訴求を行う。2012年からは支援対象校を拡大して行く。
	小学校で環境コンテストを実施する。(絵画、詩、作文等)	3月	ラリベラ、ゲテルゲ、ナクテラ、サルズナ各小学校	環境意識を高めることを目的に、新規にサルズナ小学校を加えた4つの小学校で絵画の部、詩・作文の部でコンテストを行う。優秀作の表彰など継続実施。
	小学生を対象に自然観察会を行う。	9月	ラリベラ、ゲテルゲ、ナクテラ、サルズナ各小学校	環境クラブの子供たちを対象に緑化や衛生問題の現場に触れさせる見学会を継続実施。今年は新たにサルズナ小学校を加えた四校を対象に行う。
衛生プログラム & 堆肥生産  ( 76,000)	地域参加型でゴミ処理や有機ごみリサイクル、衛生環境向上に取り組む	通年	ラリベラタウン、01カバレ、ラスト郡・ブルバラ	ラリベラ 01カバレにおいては、ゴミ処理グループの衛生維持活動の支援を行う中で、引き続き、有機ごみの分別、再利用を促して行く。2011年に対象拡大したブルバラでは、地域参加型の衛生プログラムを充実させ、コミュニティによる活動を定着させる。
	衛生プログラムとも連動させるかたちで、土壌改良のための堆肥を生産する。	通年	ラリベラタウン&ラスト郡各農園、植林サイト周辺	各植林地や苗畑で堆肥づくりを行い。植樹の際の土壌改良に活用する。地域の有機ごみの減量、再利用にもつなげる。プロジェクトを地元に移管するので、堆肥生産のノウハウを地元浸透させる。
苗木生産  ( 131,500)	ラリベラ市、ラスト郡に整備した3つの農園にて、400,000本の苗木を生産する。	～9月	カンカニ、シマノ、シムシャハ	2012年の苗木の生産本数は昨年の約半分に抑え、全般的な質の向上、ポット苗の生産増に注力する。また地域参加型植林のために、村人の収入向上につながる果樹、建材用樹種の苗木生産を積極的に行う。フレダ農業局からも、果樹の苗木生産を強く依頼・推奨されている。各農園での苗木の生産本数は、シマノ 15万本、シムシャハ 15万本、カンカニ 10万本を目指す。
大規模植林  ( 400,000)	ラリベラ市、ラスト郡に確保した植林地に、大規模な植林、育林を行う。	植林:6月～7月 育林:通年	ラリベラ市内、シムシャハ、アビセグ、サルズナ、ブルバラ、マカルト他	JICA プロジェクトは3年で150万本の植林を目指してスタートしたが、昨年、一昨年の健闘から、残った植林本数は30万本以下となった。今年は作業量が少ない分、質の高い苗木を、質の高い方法で丁寧に植えることを目標に作業を行う。また今年はこれまで植えた植林地の補充を優先し、新規の植林地開発は行わない。

地域参加型植林  ( 40,000)	オーナーシップ意識を持たせた緑化事業としてグリーンキャンペーンを行う。	植林:6月～7月 育林:通年	ラリベラ周辺	2011年にはラリベラ市内を中心に合計7,500本の苗木が主に個人によって植林された。2012年は昨年植えられた苗木の生育状況に応じて、報奨金の支払いを行う。またホテル・レストランなどの商業施設や学校などの団体への苗木無料配布を推進して行く。専門の拡張員を雇い、主に市内の一般家庭へのアプローチも強化する。
広報・プロモーション活動  ( 40,500)	サッカー教室開催のための準備を進める。	通年	ラリベラ、ラスタ郡、アジスアベバ	ベガルタ仙台のプロコーチを招いたサッカー教室(隔年開催予定)とベガルタ杯トーナメント(毎年開催予定)を2013年1月にするための諸手続きを行う。12年のトーナメントはラリベラ市だけでなく、ラスタ郡のチームの参加による、拡大開催となった。
	日本からのスタディツアーを受け入れる。	通年	ラリベラとその周辺	フー太郎の森基金の植林ツアーだけでなく、大学のスタディツアー、ラリベラ観光の訪問者などを時間の許す限り受け入れていく。
	フー太郎の英文パンフレット作成	9月	ラリベラアディス	ラリベラにおけるフー太郎の森基金の活動を紹介する英文&アムハラ語パンフレットを作成する。普段、苗木の提供などで協力しているホテルの受付に置いてもらう他、関係省庁、機関へも提供する。
	プロモーショングッズの企画・制作	7月～9月	ラリベララスタ郡	植林活動啓発、裾野拡大のため、Tシャツ等のプロモーショングッズを企画・製作する。また、各植林地に看板を設置し、植林地の維持管理の大切さをアピールする。
持続的な植林・育林システムの定着  ( 336,000)	地元移管に向けたマニュアルの整備及びトレーニングの実施	3月～9月	各植林地	植林地の管理を地元に移管するため、マニュアルづくりとワークショップを開催する。苗畑管理、堆肥管理、植林地管理、環境クラブ・植林ボランティアグループ支援の4つのテーマに関して、対象を特定しそれぞれ実施する。
	牧草生産を利用した持続的管理システムの構築	3月～9月	各植林地	プロジェクトを地元に移管していくに際し、管理技術の習得だけでなく、維持費をどうやって確保するかが重要だ。そこで牧草生産を導入し、そこから得られる収入でカバレが森林ガードの経費等を賄うシステムを確立する。家畜の囲い込みや放牧地を毎年回して利用していく方法も併せて指導する。
	モニタリングの実施	4月～9月	各植林地	ノースウオロ県、ラスタ郡、ラリベラ市の農業局、自然資源管理局、財政局担当者などでモニタリングを実施。住民による植林地の維持管理状況、牧草地の利用状況などを視察してもらう。JICAプロジェクト終了時のモニタリングに向けて、参考となる知見を得る。
ラリベラトイレ整備事業(提案予定段階)  ( 3,500,000)	ラリベラ市内のトイレ事情改善によるアメニティーと衛生環境の向上	10月～通年	ラリベラ市街地	ラリベラは世界遺産を持つ立派な国際観光都市のはずだが、アメニティー(快適さ)や衛生環境の点では、未整備の状態だ。特に家庭や町中のトイレ事情は劣悪で、旅行者が眉をひそめる状況だ。外務省のNGO連携無償の助成金を活用し、バキュームカーと大型合併浄化槽を導入し、衛生環境の改善とアメニティーの向上を目指す。

## (2) 国内事業／広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業

事業名 予算(円)	事業内容	実施日 時	実施場所	その他(重点目標等)
東日本大震災復興支援事業 (300,000)	相馬市や周辺市町村の被災者支援に関する活動を行う。	通年	相馬市や周辺市町村	これからの支援は復興のための将来の構想づくりになる。昨年7月に開始した「松川浦の未来を語るゼミナール」は1～3月分を行い、全8回の市民会議を終了。フー太郎の森基金は事務局を担当した。新年度からは松川浦での具体的なワークショップに入る。その他「東北お遍路プロジェクト」の福島ワーキンググループへの協力など、他団体と協力して進める。
サッカー関連事業 (20,000)	ユアテックスタジアム出店	4～12月	仙台市	4月からベガルタ仙台の本拠地ユアテックスタジアム仙台でのコーヒー販売をしながら、エチオピアでの活動についてキャンペーンを行う。
(40,000)	相馬市でのサッカー教室	未定	相馬市	エチオピアの子供たちとの交流をしている相馬サッカー協会の子供たちにベガルタ仙台のコーチがサッカー教室を開催する。
(20,000)	ベガルタ仙台のコーチ派遣とトーナメント戦	1月	事務局、エチオピア事務所など	2013年1月にベガルタ仙台のコーチをラリベラに派遣し、サッカー教室を開催する。今回が2度目。合わせて第3回ベガルタカップトーナメント戦を、ラリベラ市とラスト郡で開催する。そのための国内における準備を行う。
現地の自立に向けたプログラム (50,000)	村落開発事業のプランニング	通年	事務局	2014年以降のプロジェクトの計画を策定する。現在側受け入れ機関で可能性が高いのは、ラリベラで良質なコットンやニット製品の製造販売をしているタッカゼ修道院。彼らの技術にデザイン感覚を加えれば、いいお土産品の開発になる。アート系の人材の派遣が必要だ。
(50,000)	日本女子大学との連携	通年	事務局、東京など	2年前から交流を始めた日本女子大学。3月に准教授4名がラリベラに調査に入った。日本女子大学の家政学部は村落開発のための様々な手法を持っている。学生たちにとっても、第3世界を考える良い機会になればと考える。
被災地緑化支援事業 (50,000)	緑化に関する政策提言	通年	事務局、相馬市など	津波で防風林など緑地帯を失ってしまった被災地だが、新たにできる防波堤などの緩衝地帯を緑化していくように積極的に提言をしていく。また残った緑地帯の松くい虫の防除についても、環境に対する負荷の大きい空中散布を止め、地上散布に切り替えるよう提言。樹間注入や伐倒駆除による防除を勧めていく。
ブータン国交流事業 (50,000)	ブータン国交流事業のプランニング	通年	事務局、東京など	今回の震災で私たちは大きな価値の転換を求められている。GNP(国民総生産)ではなくGNH(国民総幸福度)を目指すブータン国の価値観は、私たちの生き方に大きな転換をもたらすきっかけになるかもしれない。相馬市をブータン国王夫妻が訪ねたことから、世界銀行と笹川平和財団から相馬市とブータン国の交流に関するプログラムの提案があった。相馬市の中でこれをどう展開できるか検討、調整していく。

支部活動 ( 50,000)	支部の活動の活性化	通年	全国 17 ヶ所	震災のおかげで全国キャンペーンの開催が今年も困難だが、各支部とのつながりは以前より深まっていると感じている。各支部独自の活動の展開を期待する。
地域に根差した活動と組織作り ( 10,000)	ボランティアスタッフの活動整備と地域での活動	通年	相馬市ならびに東北	全国からやって来ているボランティアとの交流を進め、ボランティアスタッフが自由に活動できる機会を提供していく。また新たなメンバーの参加も呼びかけていく。
理事会の活性化 ( 50,000)	理事会の活性化	通年	理事会、事務局	昨年開催できなかった理事会を今年は開催にこぎつけたい。
認定 N P O 法人化 ( 10,000)	認定 N P O 法の研究	通年	事務局	認定 N P O 法が改定されたことから、認可を取るメリット・デメリットを研究する。
資金調達システムの改善 ( 100,000)	会員・記念樹キャンペーン	通年	事務局、支部など	あらゆる機会に新規会員の獲得に努めるとともに、会員の継続と会費自動払い込みへの移行をお願いする。また引き落とし会員への礼状の検討。記念樹(1本 2,000 円)は一般の方も参加しやすいので、新しいチラシを製作し、拡大のための工夫をする。
( 30,000)	会員アンケート	11 月	事務局	フー太郎を支援することに喜びを感じてもらうにはどうすべきか。支援して頂くだけでなく、何かつながっていることにメリットを感じてもらうにはどうあるべきか。事業への提案など、会員アンケートを実施して、会員の考えを汲み取りながら事業に反映していく。
( 10,000)	企業との協力関係を推進する	通年	事務局	震災でできた新たな関係を大切につないでいくことをまずは行いたい。
( 10,000)	助成金申請	随時	事務局	09 年 10 月からスタートした J I C A 草の根技術協力事業の 4 半期ごとの会計処理を円滑に進めると同時に、「自立に向けた事業」のための新たな事業について検討する。
広報活動の充実 ( 200,000)	会報発行	年 4 回	事務局	2011 年は第 66 号～69 号を発行。ボランティア体験などを積極的に取り上げ、会員の皆さんが参加できるページを充実していく。
( 50,000)	広報戦略の検討	通年	事務局	2012 年 1 月にエチオピアコーチ派遣の TV がようやく放映された。共同通信が日本とエチオピア双方の取材をし、震災後も頑張るフー太郎の姿を取り上げてくれる予定。マスコミの力を借りながら活動を紹介していきたい。
営利事業 ( 50,000)	キャンペーングッズの販売	通年	事務局、支部など	各種イベントやサッカースタジアムでのキャンペーンを通じてグッズの販売をしていく。また支部においても販売促進に努めてもらう。
( 200,000)	フー太郎のお店オープン	通年	事務局	ホームページ上でショップをオープンし、エチオピアのグッズやコーヒーなどの販売を通じて、フー太郎の活動に理解を深めてもらう。